

第 37 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成10年10月21日(水)
14:00～
2. 場 所 科学技術庁委員会会議室
3. 議 題 (1) 第6回宇宙機関会議(SAF-6)の結果について
(2) 日豪友好記念事業に伴う宇宙開発展示会の開催について
(3) その他
4. 資 料 委37-1 第6回宇宙機関会議(SAF-6)の結果について
委37-2 日豪友好記念事業に伴う宇宙開発展示会の開催について
委37-3 第36回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)

委 37-1

第6回宇宙機関会議（SAF-6）の結果について（報告）

平成10年10月21日
~~調 査 国 際 室~~
~~斜 字 技 術 局~~

1. 開催日 平成10年9月27日（日）
2. 場 所 オーストラリア（メルボルン）
3. 出席者 科学技術庁 宇宙政策課調査国際室室長補佐 渡辺
文部省 宇宙科学研究所 的川教授
宇宙開発事業団JEM7プロジェクト担当 堀川プロジェクトマネージャー
調査国際部国際課 木下係員
（日本以外の参加機関については別紙1 参照）
4. 議 題
 - （1）開会
 - （2）SAF-5 議事録の確認
 - （3）SAFメンバー活動報告
 - （4）各フォーカスグループの活動報告
セッション1：機関間協力活動について
セッション2：UNISPACEⅢのためのフォーカスグループからの報告
セッション3：宇宙開発に関する教育
 - （5）閉会

5. 概要

- （1）開催国であるオーストラリア共同研究センター（CRC）のDr. Brian J. J. Embleton議長による開会の後、前回（1997年10月7日、於：伊）議事録の確認が行われた。なお、国連UNISPACEⅢに関し、フォーカスグループからの報告が行われることに伴い、国連宇宙空間平和利用委員会LAO議長が会議に同席することが紹介された。
- （2）BNSCより、機関間の協力を促進するためには、それぞれの機関の関心事項、重点分野を知ることが重要である旨の発言があり、各国（機関）の宇宙政策をBNSCでとりまとめる作業を行いたい旨説明がなされ、了承された。これに基づき、各国は、フォーマットに従い宇宙政策の概要をとりまとめ、BNSCに送付することとなった。

CSIROの下部組織

(3) 参加各国より、それぞれの宇宙開発の活動状況について、あらかじめ事務局あて送付した資料を補足する形で報告が行われた。我が国からは、宇宙科学研究所の川教授より、月周回衛星「のぞみ」により撮影された月の裏側の写真など最新の活動が補足された。

(4) 各フォーカスグループの活動報告

セッション1：機関間協力活動について

ESAより各国の機関間協力活動について報告が行われた。NASAより、機関間協力をより促進するために、small Agencyとlarge Agencyの間の機関間協力のケーススタディを行ってはどうかとの提案がなされ、フォーカスグループにて作業を行っていくこととなった。

セッション2：UNISPACEⅢに向けた活動について

DLRより、各国の関心事項、準備状況が報告された。また、UNISPACEⅢにおける展示、ワークショップ等の開催の募集がUNISPACEⅢの展示に関する事務局である米国航空宇宙学会(AIAA)より行われた。

セッション3：宇宙開発に関する教育

同日(27日)に開催されたSAF、国際宇宙航行連盟(IAF)、国際宇宙大学(ISU)共催のワークショップについてISUから報告が行われた。

(5) 次回開催地について

第3回SAFでの申し合わせにより、SAFは、IAF総会と併せて開催することとなっているところ、次回開催地はオランダ・アムステルダムとなることが確認された。

第6回宇宙機関会議(SAF-6)参加機関

【各国宇宙機関】

CSIRO (オーストラリア) (Chair)

CONAE (アルゼンチン)

CNSA (中国)

ESA (欧州)

DARA (ドイツ)

CSA (カナダ)

ISRO (インド)

ISA (イスラエル)

STA, NASDA, ISAS (日本)

CNES, ISU (フランス)

MUI (ハンガリー)

NSC (ノルウェー)

PAS (ポーランド)

BNSC (イギリス)

NASA, NOAA (アメリカ)

RSA (ロシア)

SNSB (スウェーデン)

NSAU (ウクライナ)

【国際機関】

IAA (国際宇宙航空アカデミー)

COPUOS (国連宇宙空間平和利用委員会)

Agenda.

SAF-6 MEETING
27 September 1998

Melbourne Convention Centre
Otway Rooms 1 & 2

- 1400** Introduction and Welcome - Co-Chairs
Dr Brian J J Embleton, Executive Director, CRC for Satellite Systems
Mr Giovanni Scerch, Director General, ASI
- 1410** Confirmation of Agenda and Minutes SAF-5
Business Arising from SAF-5
• Space Policy Statistics - Dr David Leadbeater, BNSC
- 1435** Agency Reports (distributed prior to meeting)
Clarification of key points (if required).
- 1445** Session 1. Inter-Agency Co-operation.
Collaborative opportunities amongst agencies with diverse programs.
• Background paper prepared by Dr Karl Reuter, ESA.
- 1530** Session 2. UNISPACE III.
SAF focus group preparations and report.
• Background paper prepared by Dr Kai-Uwe Schrogl, DLR
- 1615** Session 3. Outreach.
Awareness and visibility of space endeavours.
• Background paper prepared by ISU
To include a report on the World Workshop on Space Education (SAF/IAF/ISU)
- 1700** Meeting Close

宇宙機関会議（S A F）の概要

1. S A Fの概要

1992年の国際宇宙年活動を国際協力下で行うために設置された国際宇宙年宇宙機関会議（S A F I S Y）を発展的に解消し、新たに世界各国の宇宙機関の協力を推進していくための意見交換を行う場として、宇宙機関会議（S A F）の設置を決定。また、具体的内容は、以下の通り。

- ・ S A Fのメンバーは、宇宙計画に関する情報交換や政策的論議を通じて、創造的かつ効率的な国際協力を追求。
- ・ メンバー機関は、宇宙研究活動を専ら行う公的機関とし、出席者の代表は原則として宇宙開発の広い分野について責任を有する職員。
- ・ 本会議は年一度、場所を変えて開催し、議長及び事務局は前会議終了後から当該会議までの間、ホスト機関が務める。
- ・ 特定の事項を検討するため、本会議の下にフォーカスグループを設置可能。

2. 活動状況

1993年 4月 第1回S A F開催（於：イタリア）

S A F I S Yを発展的に解消し、S A Fを設置することを決定。上記1の、S A Fの具体的内容を決定するとともに、（1）地球観測分野における途上国への協力、（2）宇宙教育活動、（3）S A F・A W A R D（日本提案）の3つのフォーカスグループを設置。

1993年11月 第2回S A F開催（於：カナダ）

3つのフォーカスグループからの報告、各国宇宙機関の活動状況報告、今後のS A F活動を検討。

1995年10月 第3回S A F開催（於：ノルウェー）

3つのフォーカスグループからの報告、各国宇宙機関の活動状況報告等が行われた。

1996年10月 第4回S A F開催（於：中国）

3つのフォーカスグループからの報告、各国宇宙機関の活動状況報告等が行われた。また、今後はI A F（国際宇宙航行連盟）大会と同時開催することとした。

1997年10月 第5回S A F開催（於：イタリア）

我が国から、S A Fアワードに係る作業の凍結について提案し、各国宇宙機関からの意見をもとに持ち帰り検討することとした。（その後、作業凍結についてレターで各国に通知）

日豪友好記念事業に伴う宇宙開発展示会の開催について

平成10年10月21日
宇宙開発事業団

日豪関係100年を記念した「日豪友好記念事業」に参加し、オーストラリア国立科学技術センター（クエスタコン）と共同で、宇宙開発展示会「スペースクエスト」を開催するので、その概要を報告する。

1. 趣旨

日豪関係 100年を記念した一連の「日豪友好記念事業」の一環として、オーストラリア国立科学技術センター（通称：クエスタコン）において、宇宙開発展示会「スペースクエスト」を開催し、オーストラリア国民に対し日本の宇宙開発の現状及び将来計画を紹介するとともに、日本の宇宙開発及び日・豪の協力・友好関係に対する理解を深める。

2. 展示会の名称

宇宙開発展示会「スペースクエスト」

3. 主催

宇宙開発事業団

オーストラリア国立科学技術センター（クエスタコン）

4. 後援

在豪日本国大使館

5. 開催場所

オーストラリア キャンベラ クエスタコン1階 ギャラリー5（約400㎡）

6. 開催期間

1998年（平成10年）10月21日（水） ～ 1999年（平成11年）2月7日（日）

7. 展示内容

オーストラリア（ウーメラ）において自動着陸実験を行った小型自動着陸実験機（ALFLEX）の実機を中心に、「世界の宇宙開発」、「日本のロケット」、「日本の人工衛星（地球観測衛星）」及び「国際宇宙ステーション」のコーナーを設置し、展示装置、映像、模型、グラフィックパネル等により解説を行う。

【別添図の通り】

8. オープニングセレモニー

1998年10月21日（水） 17時30分～18時30分

竹下登元総理大臣、平岩外四元経団連会長、高橋雅二駐豪大使、豪連邦通信・芸術大臣等、約100名～150名が出席予定である。

以上

I. 日豪友好記念事業

1996年はタウンズウィルにおける豪州初の我が国領事館の開設100周年、日豪友好協力基本条約締結20周年、1997年はシドニー領事館の開設100周年、日豪通商協定締結40周年、在京豪州大使館開設 50周年にあたり、日豪関係は100年以上におよぶ歴史を有する。この節目の時期に日豪間の緊密な友好関係を両国民にアピールするため、1996年より一連の文化・広報事業が実施されており、今般の「宇宙展」はその締めくくりとなるもの。

II. 国立科学技術センター

(The National Science and Technology Centre "Questacon")

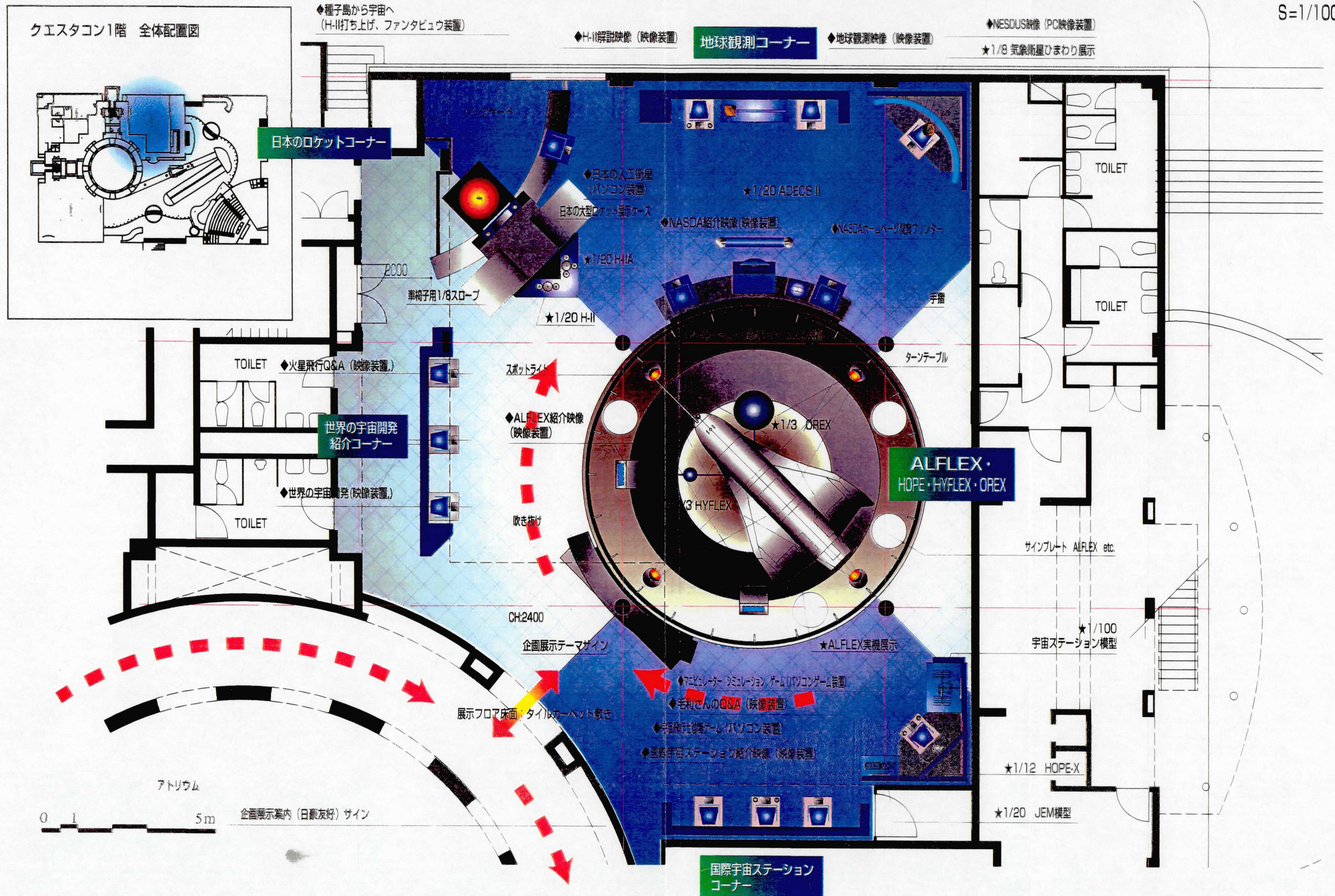
同センターは、豪州建国 200年祭を記念した日豪共同事業として、建設費の半分を我が国官民が拠出し、1988年11月23日にオープンした。子供が実際に手で触れて、科学の原理・原則を「体験」する展示を中心としている。移動展示物も有しており、オーストラリア国内の学校等に貸出しされている。

展示物は主としてセンターのスタッフにより、センター内の工房にてデザイン・製作される。年間入場者数約35万人。センター運営に係る職員は80名（除くボランティア）。

なお、1988年の同センター設立に先立ち、同年7月に当時の竹下首相が豪州を公式訪問の折、開館直前の同センターを視察している。

住所: King Edward Terrace, Canberra ACT 2600 Australia
電話: +61-2-6270-2800 FAX: +61-2-6270-2833

S=1/100



第 3 6 回宇宙開発委員会（定例会議） 議事要旨（案）

1. 日 時 平成 1 0 年 1 0 月 1 4 日（水）
1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 1 0
2. 場 所 科学技術庁 委員会会議室
3. 議 題
 - (1) ミッション実証衛星「研究ミッション」の選定結果について
 - (2) 地球資源衛星 1 号「ふよう 1 号」（J E R S - 1）の運用終了について
 - (3) 放送衛星 3 号 b「ゆり 3 号 b」（B S - 3 b）の運用終了について
 - (4) 国際宇宙ステーション組立スケジュールの協議結果について
 - (5) 宇宙実験用小型ロケット（T R - 1 A）7 号機の打上げ延期について
 - (6) 第 4 9 回国際宇宙航行連盟（I A F）大会開催結果について
 - (7) その他
4. 資 料

委 3 6 - 1	ミッション実証衛星「研究ミッション」の選定結果について
委 3 6 - 2	地球資源衛星 1 号（J E R S - 1）の運用終了について
委 3 6 - 3	放送衛星 3 号 b（B S - 3 b）の運用終了について
委 3 6 - 4	国際宇宙ステーション組立スケジュールの協議結果について
委 3 6 - 5	宇宙実験用小型ロケット 7 号機の打上げ延期について
委 3 6 - 6	第 4 9 回国際宇宙航行連盟（S A F）大会開催結果について
委 3 6 - 7	第 3 5 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
委 3 6 - 8	宇宙関係業務予定表（平成 1 0 年 1 0 月）

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理
宇宙開発委員会委員

〃

長 柄 喜一郎
末 松 安 晴
秋 葉 鏖二郎

関係省庁

通商産業省機械情報産業局次長
郵政大臣官房技術総括審議官

林 良 造（代理）
甕 昭 男（代理）

事務局

科学技術庁研究開発局長
科学技術庁長官官房審議官
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

池 田 要
中 澤 佐 市
船 橋 英 夫 他

6. 議 事

- (1) ミッション実証衛星「研究ミッション」の選定結果について
ミッション評価選定委員会及び宇宙開発事業団より、ミッション実証衛星「研究ミッション」の選定結果について、報告があった。(資料委36-1参照)
- (2) 地球資源衛星1号「ふよう1号」(JERS-1)の運用終了について
宇宙開発事業団より、地球資源衛星1号「ふよう1号」(JERS-1)の運用終了について、報告があった。(資料委36-2参照)
- (3) 放送衛星3号b「ゆり3号b」(BS-3b)の運用終了について
宇宙開発事業団及び通信・放送機構より、放送衛星3号b「ゆり3号b」(BS-3b)の運用終了について、報告があった。(資料委36-3参照)
- (4) 国際宇宙ステーション組立スケジュールの協議結果について
宇宙開発事業団より、国際宇宙ステーション組立スケジュールの協議結果について、報告があった。(資料委36-4参照)
- (5) 宇宙実験用小型ロケット(TR-1A)7号機の打上げ延期について
宇宙開発事業団より、宇宙実験用小型ロケット(TR-1A)7号機の打上げ延期について、報告があった。(資料委36-5参照)
- (6) 第49回国際宇宙航行連盟(IAF)大会開催結果について
宇宙開発事業団より、第49回国際宇宙航行連盟(IAF)大会開催結果について、報告があった。(資料委36-6参照)
また、秋葉委員より、補足説明がなされた。
- (7) その他
事務局より、第35回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)について説明が行われた後、原案通り確認された。(資料委36-7参照)
また、事務局より、平成10年10月の宇宙関係業務予定について、説明があった。(資料委36-8参照)

以 上